

1 事業の成果

●国内事業

「地球のステージ」公演

国際理解教育プログラム「地球のステージ」の年間実績は 96 回となり、前年度より 35 回の減少となった。

2019 年度は、5 月の大型連休ならびに、猛暑対策としての夏休み開始時期の見直しのため、公演日程が取れない学校が多かった。更に新型コロナウイルス感染拡大を受け、2 月後半に大規模イベントの中止要請、その後学校の休校要請が発令されたため、3 月に予定していた公演は全てキャンセルとなった。結果、年間公演回数が 100 回を下回ることとなり、大幅な減少となってしまった。

毎年開催の学校も多く、演目を重ねている。一方、何年か越しでようやく開催できたというケースもある。ステージ 1 をベースにしながらかも、開催の目的を加味しながら演目を組み合わせることもある。2 巡目の開催の場合、これまでの演目を考慮しつつ内容を組み直すので、特別構成になる場合も増えている。

津波 9 年目篇、ヨルダン川西岸篇 2、南スーダン難民篇 2、キリバス篇を新たに制作した。

・文科省委託事業の「地球のステージ」

文科省委託事業として、①東日本大震災篇を含む「地球のステージ」公演、②東日本大震災の語り部講話、の 2 つのプログラムを実施。費用は文科省が負担するので、開催校の費用負担はない。対象は仙台市を除く宮城県内の学校、団体。①に関して、2019 年度は 6 回実施を予定するも、新型コロナウイルスの影響で、2 回は実施できず。事業開始日及び案内が夏頃だったため、3 学期のみの実施。

「語り部講演会の開催」

「地球のステージ」の公演とあわせて、東日本大震災のことを伝える語り部講演会を開催。京都府舞鶴市に佐々木清和さんが出かける。30 分ほど、自らの体験や今の思いなどを語ってくださった。地球のステージ公演の震災篇とあわせての語り部なので、とても理解が深まり、意義のある時間になった。

東日本大震災復興支援事業

・主な活動として、以下の活動を実施した。

- ・ 閑上中学校遺族会会合の開催(毎月第 3 日曜日)
- ・ 「閑上の記憶」全体ミーティングの開催(毎月第 1 水曜日)
- ・ 校外学習、修学旅行、ゼミ研修、企業研修を随時受け入れ(案内ガイド、語り部講話等を実施)
- ・ 出張語り部活動
- ・ 地域学校協働活動推進事業 宮城県内(仙台市除く)の小中学校や地域住民を対象に地球のステージ公演の実施、語り部講話の実施

・地域学校協働活動推進事業

子どもたちの成長を支え、地域を創生する「地域学校協働活動」を推進し、学びによるまちづくりや地域人材育成に寄与することができた。また、社会全体の教育力の向上及び地域の活性化を図ることができたと考える。

また、同じ宮城県内で起こった出来事を自分のこととして捉え、「復興」工事が進み街がきれいになることだけではなく、被災された方たちの心が前に進んでいくような復興のあり方を、同じ宮城県民として考える機会を提供することができた。

●海外事業

東ティモール事業：

1. エルメラ県における包括的地域保健サービスと家庭医制度を通じた地域保健ボランティア育成向上事業

今年度はプロジェクトの最終年度であり、国の政策である家庭医制度と SISCa 制度を通し、住民の健康向上のため「健康促進」、「住民の医療サービスへの参画」、「医療の質の向上」、「PSF 活動の維持」の4つの支援を目指し、PSF 育成と質の向上、地域保健医療サービス体制の整備、他部門の協力体制の強化を確立する為の活動ならびにアドボカシー活動などを行った。

実績と成果：

- ・ 4 月
桑山と後藤が渡航。事業監査、及び PSF 能力強化研修を実施。
PSF 能力強化研修では桑山が講師となり、精神疾患についての講義、健康教育ポスターの作成、医療受診行動についての啓発を目的とした PSF 出演の啓発ビデオ作成を実施した。
- ・ 5 月
神馬専門家(東京大学大学院医学系研究科教授)と藤屋専門家(慶應大学看護医療学部専任講師)が渡航。巡回診療の視察、医療者向けセミナー、保健省職員に対する保健政策セミナーを実施。セミナーでは講義とグループワークを実施し、問題分析から今ある資源で実現可能な対策について話し合った。
- ・ 7 月～9 月
各村で実施される会議に参加し、村の健康問題について PSF より提起。村の住民で健康について話し合う機会とした。また同会議にて、4 月の PSF 能力強化研修時に作成した啓発ビデオを上映した。
- ・ 9 月
PSF 能力強化研修を実施。家庭訪問時の水・衛生環境指導、妊婦へのエクササイズ指導、母子手帳利用強化、応急処置、ハンセン病等について講義と健康教育演習を実施。
- ・ 10 月
関係者会議実施。PSF、村長も準備がきちんとでき、会議自体、意見も活発に出た。
- ・ 11 月
PSF 研修実施。
- ・ 1 月
PSF 交流会実施。本部担当の高島渡航。
- ・ 2 月 6 日
事業終了

3 年にわたって、エルメラ県にて保健サービスの向上をめざし、PSF の能力向上を図ってきた。関係各所の連携も取れてきたと同時に、村内での PSF の健康知識の向上も見られ、住民の健康に対する意識も少しずつ変わってきたことにより、地域保健医療サービス実施体制が整備され、機能が強化された。

2. マヌサエ村助産師育成プロジェクト

2019年2月から助産師学校へ通学しているが、2020年1月時点で1年を経過し、全ての試験に合格。テスト結果も良好。毎月、団体へ就業レポートを提出しながら、勉学に励んでいる。

テスト結果

助産(院内コミュニケーション)85、薬学65、栄養学75、医療コミュニケーション75、生物学60、コミュニティヘルス80

パレスチナ支援事業:

パレスチナ自治区ガザ地区とヨルダン川西岸地区の2地区にて心のケアの取り組みを行った。ガザ地区では、過去4年間の経験を活かして人材育成に重点を置き事業を実施。ヨルダン川西岸地区では、2つの難民キャンプの子どもたちに対し、心理社会的ケアクラスを開いた。

実績と成果:

ヨルダン川西岸地区

- ・ 一年間を通じた心理社会的ケアプログラムに向けて48名の子どもたちを選定、プログラムを実施、3月7日を以って終了。
- ・ 新規で広報担当を採用。
- ・ 5～8月と1月に田川専門家、5月と2月に桑山専門家を派遣。
- ・ 2月23日、24日に両難民キャンプにて最終発表会を実施。
- ・ 2月26日に成果発表の場としてシンポジウムを開催しUNRWA関係者や国際NGO等80名以上が参加。派遣中の桑山専門家が最終発表会と併せて出席し、事業の評価を実施。
- ・ 活動はほぼ計画通り終了、目標も概ね達成した。

ガザ地区

- ・ 2年次と同じ3提携団体と基本合意書(MOU)の締結完了。
- ・ 一年間を通じた心理社会的ケアプログラムに向けて提携団体により100名の子どもたちと18名の研修生を選定、プログラムを実施、3月7日を以って終了。
- ・ 新規で広報担当と翻訳・通訳を採用。
- ・ 2月19日に最終発表会を実施。ラファ市長はじめ、現地政府、国際機関要人が多数参加。派遣中の桑山専門家が出席し、事業の評価を実施。
- ・ ヨルダン川西岸地区同様、活動はほぼ計画通り終了、目標も達成した。

ミャンマー里親学資支援事業:

ミヤッセ・ミャー村の中学校3年生から高校2年の生徒の就学支援を実施した。

主に通学にかかる費用支援、学習資材支援。また、教育支援の他、ミヤッセ・ミャー村の生活改善に関する支援実施。2020年1月には、村民に対する健康チェックを実施し、高血圧に対する保険セミナーを行った。

実績:

1. ミヤッセ・ミャー村の中学校3年から高校2年の生徒を対象に、月々かかる通学費用と学習資材費を支援。
 - ・ 2019年度は計45名に支援を実施
中学生 Grade8: 11名 Grade9: 13名
高校生 Grade10: 7名(内2名はドロップアウト) Grade11: 13名
卒業生: 1名
2. 5月: 後藤が村を訪問。生徒の就学状況や家庭状況、村の様子等視察した。
3. 1月: 桑山、後藤が渡航。送金が難しくなっているため、学資・必要経費を持参。

桑山による住民向けの健康チェックを実施。

南スーダン難民支援プロジェクト

紛争が続く南スーダンから隣国ウガンダへ逃れて暮らす人々へ、心理社会的ケアプログラムを通して、心の復活を促した。事業にあたっては SDGs Promise Japan(以下 SPJ)が主体となり、代表で精神科医の桑山が専門家として関わった。

成果と実績:

- ・ 8月

桑山、石橋が渡航。心理社会的ケアプログラムを視察、指導実践。また、心のケア活動の取材・撮影を行い、「南スーダン難民篇 2」として作品化。

- ・ 1月

桑山、石橋が渡航。学校の先生と地域のコミュニティリーダーへ心理社会的ケアのエッセンス伝授。コミュニティリーダー向けにはジオラマにて「理想の街」を制作、「針金の人生」ワークショップを実施。学校の先生向けには音楽ワークショップを実施。

2 事業内容

(1) 特定非営利活動に係る事業

- ① 映像と音楽を組み合わせた国際理解教育プログラム「地球のステージ」シリーズの開催に関する事業
- ② 「地球のステージ」に関する情報提供、交流事業等の実施に関する事業
- ⑥ 「地球のステージ」シリーズに関する CD、絵葉書などの有償提供

ア 地球のステージ公演事業

- ・ 事業内容 国際理解講座「地球のステージ」開催
- ・ 日時 通年
- ・ 場所 日本全国の学校体育館・ホールなど
- ・ 従事者人数 約4名(1公演)2名(マネジメントスタッフ)
- ・ 対象者 学校の生徒とその父兄、一般参加者 約35,000人
- ・ 支出額 23,364,730円

- ③ 医療・教育・職業訓練などを通しての国際支援事業
- ⑤ 途上国支援、自然災害時における救援活動への募金活動

ア 東ティモール支援事業

- ・ 内容 エルメラ県における包括的地域保健サービスと家庭医制度を通じた地域保健ボランティア育成向上事業
医療アクセスが困難な住民へ適切な医療を届けるべく、助産師の育成を支援。
- ・ 日時 2019年4月1日～2020年2月6日(N連事業)
2019年4月1日～2020年3月31日(継続)
- ・ 場所 東ティモール民主共和国
エルメラ県ハトリア郡10村(パラミン村、ウラホウ村、レギミア村、コリアテ村、アスラウ村、マヌサエ村、ハトリア村、ファトボル村、ハウプウ村、サマラテ村)
- ・ 従事者人員 日本人スタッフ4名、東ティモールスタッフ12名、
- ・ 対象者 直接裨益者:PSF 61名(うちPSF指導者10名)、
保健センター職員12施設 約20名
間接裨益者:事業対象地区の住民 約35,000名

- 助産士学校学生 1名
- ・支出額 24,746,682 円
- イ パレスチナ支援事業
- ・内容 ガザ地区・ヨルダン川西岸における危険地帯居住児童に対する心理社会的ケア及び実践者育成事業
- ・日時 2019年4月1日～2020年3月31日
- ・場所 西岸地区 ①ジャラゾーン難民キャンプ ②ラマッラ市
③カランディア難民キャンプ
ガザ地区 ①ラファ市 ②ハインユニス市
- ・従事者人員 日本人スタッフ4名、現地スタッフ19名、
- ・対象者 直接裨益者:約906名(ガザ地区、西岸地区のケアクラス対象児、
研修生、提携団体関係者等)
間接裨益者:約14,736名(ケアクラス対象児童の家族・友人、
研修生が本事業外にケアクラスを行う場合の対象
児童、イベント参加者の知人等)
- ・支出額 47,158,167 円

ウ ミャンマー里親学資支援事業

- ・内容 ミャンマー中部ミャッセ・ミャー村の中学・高校に通う生徒の就学支援
- ・日時 2019年4月1日～2020年3月31日(継続)
- ・場所 ミャンマー国 シャン州 ミャッセ・ミャー村
- ・従事者人員 日本人スタッフ2名、現地スタッフ1名
- ・対象者 中学生 Grade8:11名 Grade9:13名
高校生 Grade10:7名(内2名はドロップアウト)Grade11:13名
卒業生:1名 計45名
- ・支出額 1,713,956 円

エ 南スーダン難民支援事業

- ・内容 南スーダン内戦から逃れた難民に対する心のケアプログラム事業
- ・日時 2019年8月13日～2019年8月23日
2020年1月23日～2020年1月30日
- ・場所 ウガンダ国内難民キャンプ
- ・従事者人員 日本人スタッフ2名
- ・対象者 難民キャンプの未難民 700名、コミュニティリーダー 30名、
小学校の先生 120名、小学生 1,200名、保護者 300名
- ・支出額 1,409,944 円

④ 自然災害時における救援活動に関する事業

ア 東日本大震災復興支援事業

- ・内容 津波復興祈念資料館「閑上の記憶」の運営ならびに被災者支援
- ・日時 2018年4月1日～2019年3月31日(継続)
- ・場所 宮城県名取市閑上、出張語り部は各依頼者の設定地
- ・従事者人員 フルタイムスタッフ1名、パートタイムスタッフ6名
- ・来館者数(裨益者数)
「閑上の記憶」来館者 10,368人
案内ガイド 144回実施、3,536人参加

語り部講話	76 回実施、1,215 人参加
語り部の会	14 回実施、140 人参加
出張語り部講演会	27 回開催
	※ 大雨による延期:1 回
	※ 新型コロナウイルス感染拡大に伴う中止:1 回

出張語り部講演会実績

宮城県ユニセフ協会、宮城県加美農業高等学校、静岡県立浜名高等学校、奥州市立胆沢中学校 2 学年、聖ヨゼフ学園日星高校、地球のステージ舞鶴実行委員、いすみ市立大原中学校、仙台市八木山東町内会、全トヨタ労連担当者研修会、マニユライフ生命保険株式会社、株式会社 JP21、こくみん共済 coop〈全労済〉セミナー、駒澤大学高等学校、こくみん共済 2019 年度実務担当者研修会、こくみん共済富山推進本部職員全体研修会、埼玉県立鳩ヶ谷高等学校、こくみん共済 coop〈全労済〉協力団体代表者研修会、三重県四日市市立八郷西小学校、ネットトヨタ愛知労働組合、福岡工業大学附属城東高校ダンス部、姫路市立城西小学校(城西地区連合自治会、姫路西ロータリー含)、札幌市立栗山中学校、岩見沢市立豊中学校、札幌市立新川中学校、AT グループ労働組合連合会、真宗大谷派仙台教務所

イ 地域学校協働活動推進事業

- ・内容 「閑上から津波を通していのちを考える会」を学校現場で実施
 - ・日時 2019 年 9 月 1 日～2020 年 2 月 5 日
 - ・場所 宮城県内の小中学校体育館(仙台市を除く)
 - ・従事者人員 フルタイムスタッフ2名、講演者 1 名、語り部 1 名
 - ・対象者 宮城県内の小中学生
- ・語り部講話の開催:5 回
石巻農業協力組合総務部家の光大会、登米市立柳津小学校、大崎市立古川東中学校、気仙沼市立唐桑小学校、宮城県名取北高等学校
 - ・地球のステージ公演開催:4 回
富谷市立富谷第二中学校、登米市立中田中学校、岩沼おやこ劇場、七ヶ浜町立向洋中学校
 - ※ 中止:2 回(新型コロナウイルス感染拡大に伴う休校措置のため)
- ・支出額 3,318,000 円